

ムダではなかった6年

昨年4月から法律実務に携わるポジションに戻った。
この6年間経理担当だったので、数年ぶりである。

法律事務所職員
澤 久美子

担当業務の変更に複雑な思い

新卒での入所以来13年の間、受付、庶務、法律実務そして経理とそれぞれ数年を経ってきた。

直近まで一番長く担当した経理では、数字を扱うということの他に労務管理に関する書類に接するということにもやりがいを感じ、年月が経つほどにスキルも積みまれていく業務内容に自分なりに満足していた。そのような理由で今回の異動は自分の中では喜ばしいものではなかった。

これまで蓄積したものから離れ、別の業務に移るなんてなんだかこれまでの6年間の生かせず意味のないものになるような気がした。また、勤続年数が少ない後輩の方が実務に関しては経験があるということが少し寂しかった。

ただ、徐々に各書類の取り寄せや、書面の作成ができるという楽しみもあり、多少の緊張と意気込みを持って4月を迎えた。

前に少しは実務もしていたので、慣れるのにそれほど苦労はしないだろうと思っていた。

ところが、異動後すぐに6年間の長さを感じた。例えば職務上請求用紙が変わっている。以前は申請理由など書かなかったのに戸惑った。また、登記申請が郵送でできると知り驚いた。こちらは便利になったなあ嬉しかったが。

少しやり出すと思出すこともあるのだが、多くはテキストで何度も手続や必要書類を確認し、まわりの人に聞き、自分の過去の手控えをめぐりながら仕事を処理していった。以前はスラスラとできていたことが、一つひとつ確認しないと不安になり、時間ばかりかかって先に進まない。これはもう一から始めるという気持ちで取り組もうと自分に言い聞かせ弁護士から依頼される

仕事を必死でこなしていった。時には余りにも不甲斐ない自分を情けないと感じた。

しかし、とにかく依頼者、弁護士、同僚に迷惑をかけまいとそれだけを考えて。

経理のときの経験が生きている

数ヶ月経つとだいぶ慣れてきて当初よりスムーズにできることが増えた。そして、意外だったのは経理だったときの経験が生きていると感じたことだった。

数字を扱うポジションにいると細部に慎重になる。数字の見間違い、思いこみ、読み間違いが重要なミスにつながる。一度誤送金してしまうとその後の対処が大変であり、関係者に大きな迷惑をかけてしまう。自然と一つひとつの仕事が丁寧になり、何度も何度も見直すなど細心の注意を払うようになる。

このような経験が自分の糧となっていたのである。入所数年は、うっかりミスや思いこみ、多少の慣れで失敗をやらかしてきた。けれど、13年経てばそれなりに法律事務職員としての経験を生かして失敗を繰り返さずに、また未然に防げるようにと仕事ができている。普段は目の前のものをこなすことに必死で気付かないけれど、ふとしたときに振り返ると、きちんと積み上げたものが自分の中に残っているのだと思った。そうか、これまでの時間はムダではなかったのだと気付いた。どんな仕事内容でも常に勉強しスキルを磨いていくことに変わりはない。狭い視野で仕事をとらえずに、もっと大きな目で見れば少しずつでも成長しているのを感じられるに違いない。それには、日々の仕事に真摯に取り組み、より多くのことをこなせるように頑張っていかなければならないと思う。

そんなことを改めて考えたこの数ヶ月であった。